

専門調査レポート: 知的財産領域における生成AIツールの進化と特許特化型AIエージェントの比較分析

Gemini 3.1 pro

1. 序論: 特許調査・分析における生成AIのパラダイムシフト

現代の知的財産(IP)および研究開発(R&D)の領域において、人工知能(AI)技術の導入は過去数年間で劇的な進化を遂げており、企業の競争力を左右する極めて重要な要素となっている。特に大規模言語モデル(LLM)を中心とした生成AIの台頭は、膨大な特許文献の検索、専門用語の読解、関連文献の要約、さらには明細書の作成支援といった知財実務のコアプロセスを根本から変革しつつある¹。市場には現在、企業の目的に応じて多様な特許特化型の生成AIツールが展開されているが、技術の成熟に伴い、そのシステムアーキテクチャはユーザーの指示を待つ「アシスタント(支援型)」から、目標に向けて自ら行動する「エージェント(自律遂行型)」へと明確なパラダイムシフトを起こしていることが観測されている。

本レポートでは、特許特化型の生成AIツールを、Patsnap(Hiro)やTokkyo.Ai(MyTokkyo.Ai)に代表される「AIエージェント型(自律遂行・目標指向型)」と、島津製作所型Genzo AI、Summaria、AI Samurai、Patentfieldなどに代表される「従来型生成AI活用ツール(タスク特化・支援型)」の2つのカテゴリに大別して分析を行う。両者の根本的な設計思想、システムに実装されている推論アルゴリズムや文脈理解の仕組み、そして実際の知財ワークフローにおける適用範囲と提供価値の差異について、包括的かつ詳細な考察を展開する。特許を単なる「権利保護の手段」から「経営戦略の武器」へと昇華させる上で、それぞれのツールがどのような役割を果たすのかを紐解く。

2. 「AIエージェント」と「従来型生成AI」のアーキテクチャ上の根本的差異

特許および知財業務におけるAIツールの比較選定を行う上で、まずは基盤となる「従来型生成AI」と「AIエージェント(Agentic AI)」の技術的、および概念的な差異を明確に定義する必要がある。この両者は、一見すると対話型のユーザーインターフェースを備えている点で類似している場合があるものの、その背後で稼働する情報処理プロセスと、到達可能なタスクの複雑さにおいて決定的な違いを有している。

2.1 従来型生成AIの特性(タスク特化・支援型システム)

従来型の生成AIツールは、主にユーザーが入力したプロンプト(指示)に対して直接的かつ即時的な回答を返す「プロンプト・レスポンス型」のアーキテクチャを採用している²。これらのシステムは、与えられた単一のテキストブロックの要約、特定の言語から別の言語への機械翻訳、あるいは入力されたキーワードや文章に基づく類似文献の抽出といった、単一または限定的なスコープのタスク処理に特化している。

知的財産の高度なコンテキストにおいては、特許明細書特有の難解な専門用語や独特の言い回しを非専門家向けに平易な言葉で解説したり、特許の請求項と対象となる製品仕様の関連性を対比し

て抽出したりするタスクで強力なパフォーマンスを発揮する¹。しかしながら、これらのシステムは自律的な判断能力や文脈の長期的な保持能力を持たない。複数のタスクを跨いで一つの大きな目標を達成するためには、人間のユーザーが常にプロセスを監視し、結果を検証した上で、次々と適切なプロンプトを与え続ける(プロンプト・チェーニングと呼ばれる)という継続的な介入が不可欠である。つまり、従来型ツールはあくまで人間の作業効率を高める「高度な道具」の域を出ない。

2.2 AIエージェントの特性(自律遂行・目標指向型システム)

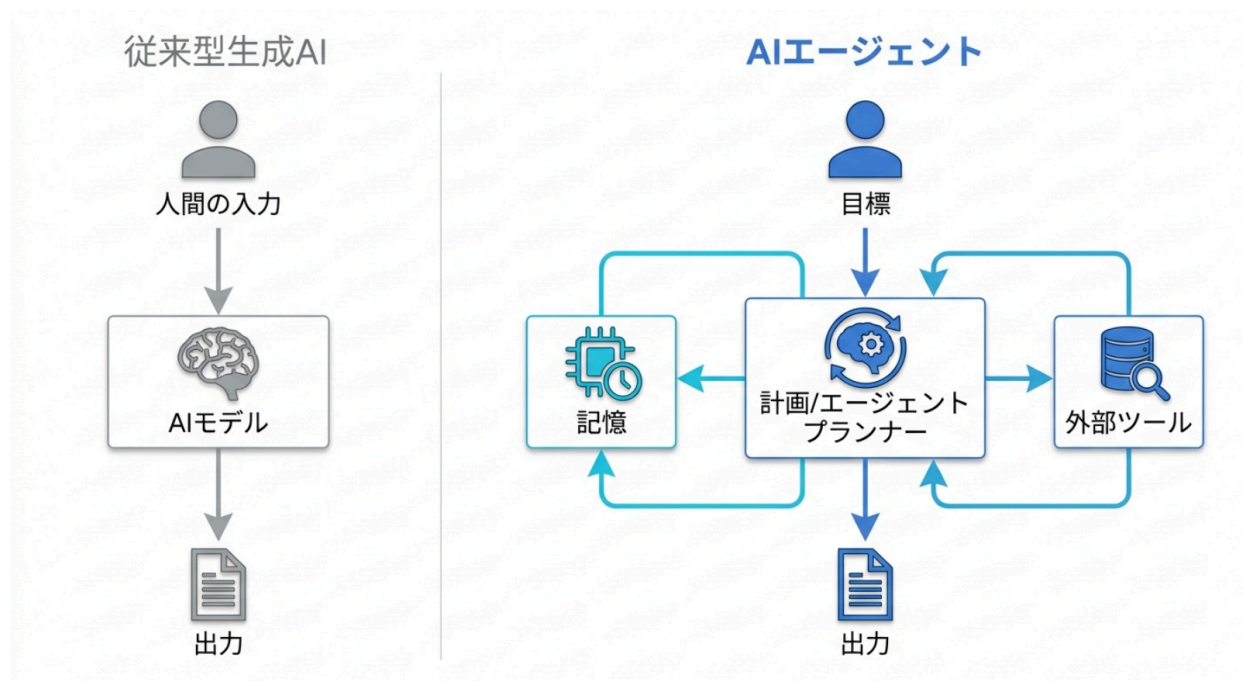
一方、知財領域に新たに登場したAIエージェント(Agentic AI)は、単に情報を提供するだけでなく、ユーザーの代理として行動を起こし、複数のプロセスを自律的に処理するよう設計されたシステムである²。AIエージェントは、以下の4つの主要な要素を複雑に統合して機能する²。

第一の要素は「目標(Goals)」である。ユーザーは単発の指示ではなく、「特定の競合企業の最新の電池技術に関する特許を包括的に調査し、自社の研究テーマとの差異を分析してレポート化する」といった最終的な到達点をエージェントに設定する²。第二の要素は「記憶(Memory)」であり、システムは過去のアクションや抽出した情報をセッション内で保持し、継続的なタスクの文脈に反映させる能力を持つ²。

第三の要素は「計画(Planning)」であり、これがエージェントの自律性を支える中核となる。エージェントは目標を達成するために必要なステップを自律的に分解し、どのような順序で推論を行うべきかを決定する(思考の連鎖:Chain-of-Thought)⁴。第四の要素は「ツール使用(Tools)」であり、エージェントは特許データベース、科学論文アーカイブ、あるいは外部の解析APIなどを必要に応じて呼び出し、タスクを実行する²。

これらの要素を組み合わせることで、特許調査プロセスにおいて、AIエージェントは「最新の特許を検索する」という初期タスクにとどまらず、検索結果を自律的に競合リストと比較・検証し、技術トレンドの要約を生成し、さらにはそのレポートを毎週定期的に指定のメールアドレスへ送信するという、連続的かつ自律的なワークフローを人間による中間介入なしで実行することが可能となる²。これは、高度な専門知識を持った人間のジュニア・アナリストに業務を完全に委譲するのと同義のパラダイムシフトと言える⁴。

従来型生成AIとAIエージェントのアーキテクチャ比較



従来型生成AIが単一のプロンプトに対して直線的な回答を行うのに対し、AIエージェントは目標を与えられると、計画（Planning）、記憶（Memory）、外部ツール（Tools）へのアクセスを自律的に繰り返し、最終的なタスクを完遂する。

3. AIエージェント型プラットフォームの深掘り: 自律型知財戦略の最前線

次世代の知財ツールとして市場に投入されているAIエージェント型プラットフォームは、単なるテキストの要約や検索効率の向上を超え、技術的な推論、仮説の生成、そしてR&D部門と知財部門のギャップを埋める戦略的なプロセス統合にまで踏み込んでいる。ここでは、その代表格である「Patsnap Hiro」と「Tokkyo.Ai」のアーキテクチャとユースケースを深く分析する。

3.1 Patsnap (AIエージェント: Hiro / Hiro LS)

シンガポールを拠点とするPatsnap社が提供する「Hiro(およびライフサイエンス分野に特化したHiro LS)」は、グローバルなイノベーション創出に向けて構築されたAIアシスタントであり、IPおよびR&Dのワークフロー全体を自律的に支援する強力なエージェント的機能を有する⁶。

3.1.1 独自のデータ基盤とカスタムLLMによる幻覚の排除

Hiroのアーキテクチャにおける最大の強みは、汎用的な大規模言語モデル(例えば標準的なGPTやClaudeなど)に依存せず、独自に構築されたデータ基盤とカスタムLLMを用いている点にある。Hiroは、特許文献、科学論文、訴訟データ、技術セクター情報など、実に20億(2,000,000,000)以上の構造化データポイントで独自にトレーニングされている⁶。また、製薬・ライフサイエンス領域において

は「PharmaGPT」と呼ばれる、Patsnap独自のイノベーションデータで訓練された専用のLLMが稼働している⁶。

知財業務において、生成AIの「幻覚(ハルシネーション:もっともらしいが虚偽の情報を生成すること)」は致命的なリスクをもたらす⁹。Hiroは特許特有の難解な言語構造や高度な専門技術用語を深く理解する専用モデルであるため、一般的なAIツールが陥りがちな幻覚を回避し、提供する回答が常に元のソース(情報源)に直接リンクされた、信頼性の高い結果を提示することが保証されている⁴。また、企業データの取り扱いに関しても、クラウドまたはオンプレミスでの展開が可能であり、ユーザーの入力データでLLM自体を再学習させない設計となっているため、機密情報を安全に処理できる環境が担保されている⁶。

3.1.2 RAGとRAT(Retrieval-Augmented Thinking)の統合による高度な推論

Hiroは、エージェントの推論プロセスの核心として、一般的な「RAG(検索拡張生成: Retrieval-Augmented Generation)」に加えて、「RAT(Retrieval-Augmented Thinking: 検索拡張思考)」と呼ばれる一段進んだ高度な推論アーキテクチャを導入している⁴。

RAGは、AIが回答を単に「捏造」するのではなく、特許や文献のデータベースから関連情報を取得し、研究者が行うように情報源を適切に引用するメカニズムを提供する⁴。一方、RATは、単に検索された文書を提示するだけでなく、エージェントがそのコンテンツを深く解釈し、膨大な情報の中から最も関連性の高い文書を浮上させることでノイズを劇的に削減し、ユーザーの意思決定プロセスを向上させる役割を担う⁴。このRAGとRATの組み合わせにより、Hiroは検索精度の向上と分析の深さの両立を実現している。

3.1.3 自律的計画(Chain-of-thought)とガードレール機能

ユーザーがHiroに対して「ある技術分野における新規参入企業の動向を調査してほしい」といった広範なプロンプトを入力すると、Hiroのエージェントは「Chain-of-thought(思考の連鎖)」のメカニズムを起動させる⁴。エージェントは自ら必要な検索クエリを生成し、適切なデータベース(特許、論文、抗体データベースなど)からデータを取得し、推論を適用するという一連のステップを自律的に計画する⁴。

特筆すべきは、このプロセスの透明性である。Hiroはシステムが行動を起こす前に、エージェントが立案した計画の明確なサマリーと、各ステップの根拠となる証拠をユーザーに提示する⁴。これにより、ユーザーはAIの論理展開を監査(Audit)することが可能となる⁴。さらに、外部サービスとの連携など機密性の高いアクションを実行する前には、ユーザーの承認を要求する「ガードレール」機能が実装されており、エージェントが安全なサンドボックス内で動作することを保証し、誤用やコンプライアンス違反を未然に防止している⁴。

3.1.4 TRIZと第一原理思考の活用によるイノベーション支援

Hiroは単なる先行技術調査ツールにとどまらず、イノベーションの創出そのものを支援するアプローチを採用している。「TRIZ(発明的問題解決理論)」や物事を根本的な真理から考える「第一原理思考(First Principles)」のフレームワークをシステムに組み込んでおり、これによって革新的な技術的解決策の生成を支援する⁴。AIが提示する技術的提案が基礎的な科学法則を遵守していることを保証しつつ、研究者に対して新たなアイデア生成のインスピレーションを与えることが可能であり、R&Dプロセスの初期段階から強力なパートナーとして機能する⁴。

3.2 Tokkyo.Ai (MyTokkyo.Ai)

リーガルテック株式会社が開発・提供する「MyTokkyo.Ai」は、日本国内においていち早くAIエージェントを搭載した特許支援プラットフォームである¹¹。このシステムは「特許特化ディープリサーチ (Deep Search)」を実装しており、単なる先行技術調査にとどまらず、研究データからの発明の抽出から、特許出願文書のドラフト作成に至るまでの一連の工程をAIエージェントが自律的に実行するという画期的なアプローチを採用している¹²。

3.2.1 ディープリサーチと意味ベースの先行技術探索

特許調査において、従来は人間が適切なキーワードを選定し、検索式を組み立てる高いスキルが要求されていた。しかし、MyTokkyo.Aiの「Deep Search」機能においては、ユーザーが自然言語による技術内容の説明、研究現場のメモ、あるいは解決したい課題文などをそのまま入力するだけで、AIエージェントがその背後にある技術的文脈や本質的な意味を深く理解する¹²。これにより、キーワードの完全一致に依存しない、意味ベース (セマンティック) での先行技術や関連特許の探索が可能となり、研究テーマ検討段階での出願可否判断や、新規事業投資における知財観点からの迅速な評価を支援する¹²。

3.2.2 R&Dデータからの発明抽出と自律的ドラフト生成の実践例

AIエージェントの自律性と推論能力が最も鮮明に発揮されるのが、研究開発の現場から得られる生の実験データからの「発明抽出」プロセスである。実際の企業事例として、プラスチック成形業界における環境対応素材開発のプロジェクトが報告されている¹⁴。

脱炭素化の潮流の中で、再生PET (rPET) やバイオマス樹脂 (PLA) の活用が進められているが、これらをブレンドした際の相溶性の確保や結晶化の制御が技術的な課題となっていた。さらに、配合条件や成形温度プロファイルは現場の経験的なノウハウに依存しがちであり、知財化が遅れるという問題があった¹⁴。この状況において、「MyTokkyo.Ai」にrPETとPLAのブレンド条件、PGMA相溶化剤の添加量、金型温度制御プログラムなどに関する複数の試作データ (研究メモや実験ログ) を入力した結果、AIエージェントが自律的にデータを解析した¹⁴。

エージェントは単にデータを整理しただけでなく、結晶化促進と成形サイクル短縮の間の因果関係を特定し、既存特許との技術的差分を自動分析した上で、特許化の可能性が最も高い技術要素を「発明」として抽出したのである¹⁴。この事例が示すように、エージェントはR&Dの暗黙知を知財という形式知へと変換する強力なエンジンとして機能する。さらに、同システムは弁理士や外部専門家と検討するための出願依頼文のたたき台 (ドラフト) を自律的に作成する能力を有しており、出願関連業務において90%以上の時間短縮を達成したという報告もあり、知財部と事業部の連携を劇的に効率化している¹。

3.2.3 強固なプライベート環境の構築

特許出願前のアイデアや研究開発の生データは、企業にとって最高機密に属する情報である。Tokkyo.Aiは、検索履歴やお気に入り、入力されたメモなどのデータが外部のLLM学習データとして利用されたり、漏洩したりしないよう設計された安全な専用の「プライベート環境」を提供している¹。これにより、大企業や研究機関であっても、機密情報の安全性を最高レベルで担保した上で、最先端の生成AIの恩恵をフルに享受できる体制が整えられている。

4. 従来型・特化型生成AIツールの深掘り: 特定タスクの極限効率化

AIエージェント型が「ワークフロー全体の自律的な遂行」を目指すのに対し、従来の生成AIを活用した特化型ツールは、知財業務を構成する「特定の高負荷タスク」を極限まで効率化・高度化することに主眼を置いている。これらのツールは、人間がプロセスをコントロールしつつ、AIの圧倒的な処理能力を要所で活用するアプローチをとっており、それぞれが独自の強みと機能を提供している。

4.1 島津製作所型「Genzo AI」: 社内実践に基づく知財業務のSaaS化

2026年4月1日に設立された新会社「Genzo AI」は、分析機器大手である島津製作所と特許調査会社IP Agentが共同で展開する、次世代の知財業務自動化プラットフォームである¹⁶。社名は島津製作所の創業者である島津源蔵氏にちなんで命名されており、日本の知財力を底上げするインフラとなることを目指している¹⁶。

4.1.1 実証された大幅なコスト削減と業務自動化

Genzo AIの最大の特長は、これが単なるソフトウェアベンダーの開発したツールではなく、島津製作所の知的財産部が2023年から自社内で独自に開発・運用し、現場で鍛え上げてきた知財関連業務の自動化プラットフォームをSaaS (Software as a Service) として外部提供するものであるという点である¹⁶。

このシステムは、社内の開発資料や研究データを読み込ませることで、AIが出願候補を自動的に提案する機能を備えており、ベテラン知財部員が持つ「暗黙知」を言語化し、誰もが使えるシステムとして具現化されている¹⁶。島津製作所における社内実践においては、2025年度において外部の特許事務所などへの委託費を年間8,000万円も削減するという、極めて直接的かつ劇的なコスト削減効果を実証されており、その実用性の高さは他のツールの追随を許さない¹⁶。

4.1.2 セキュリティ要件と将来のロードマップ

企業の機密情報を取り扱うプラットフォームとして、Genzo AIは強固な情報流出対策を講じている。システムに読み込ませた開発データなどは、サーバー上から一定期間経過後に自動で削除されるよう設定することが可能であり、エンタープライズ企業が求める厳格なセキュリティ要件を満たしている¹⁶。

また、現在は出願候補の提案などが中心となっているが、2026年夏以降には順次機能を拡張していくロードマップが示されている²¹。これには、より高度な明細書案の自動生成、先行文献調査の自動化、侵害予防のためのFTO (Freedom to Operate) 調査、さらには知財に関連する契約書のレビュー機能などが含まれており、知財業務全般をカバーするフル機能プラットフォームへの進化が期待されている²¹。

4.2 Summaria (サマリア): 特許文書の読解とスクリーニングの最適解

株式会社パテント・インテグレーションが提供する「Summaria (サマリア)」は、2023年4月にリリースされた特許文書の読解支援に特化したAIアシスタントサービスである²²。最新の「Open AI GPT」技術と連携し、膨大かつ難解な技術文書を迅速に理解することに特化しており、知財実務者や調査担当者の日常的な業務負荷を大幅に軽減する実用的なツールとして評価されている¹。

4.2.1 読解アシスタントとしての高度な文脈解釈機能

Summariaのコア機能は、特許文書に対する自動分類、精度の高い要約の生成、そして難解な技術用語の平易な解説にある¹。特許明細書は独特の法律用語や複雑な構造を持つが、Summariaを使用すれば、例えば「請求項1」の内容を、明細書全体の記述内容を考慮した上でAIがわかりやすく解説してくれる³。また、「解決しようとする課題」や「課題を解決するための手段」といった特定のセクションを自動で抽出し、日本語で平易に説明する機能も備えており、専門家ではない事業部の担当者でも、対象特許の概要を短時間かつ的確に把握することが可能となる³。

さらに、特許文書に対してどのような分類(IPCやFIなど)を付与すべきかという作業においても、AIアシスタントが分類名、関連度、およびその分類が適当であると判断した「理由」を提示するため、分類付与作業の負担を大幅に削減する²⁴。

4.2.2 侵害予防調査(クリアランス調査)における圧倒的なスクリーニング効率

Summariaの真価が最も発揮されるのは、新製品の市場投入前に必須となる「侵害予防調査(クリアランス調査)」におけるノイズスクリーニングの工程である。2023年12月の機能アップデートにより、従来は1つの請求項にしか対応していなかったスクリーニング機能が強化され、独立請求項だけでなく従属請求項を含むすべての請求項に対して一括でAIに検討させることが可能となった²³。

実際のワークフローにおいて、ユーザーはまず対比させたい「自社製品の製品仕様」をテキストとして入力し、解析対象として他社特許の特定の請求項を選択する²⁵。実行すると、AIアシスタントは構成要素ごとに両者を比較し、「対象製品と特許文書の関連度」、その関連度を算定した論理的な「理由」、そして製品と特許の明確な「相違点」を検討し、表形式などでわかりやすく出力する²³。

このプロセスにより、関連度が低いと判定された特許は「ノイズ特許」として確信を持って初期段階で調査対象から除外できるため、人間が行わずに精読して判断しなければならなかったスクリーニング作業の膨大な時間と労力が劇的に削減される²⁵。また、クライアントや上司へ報告する際の調査報告書の作成工程においても、AIが抽出した対比結果や要約を直接活用できるため、業務全体の効率化に寄与する²³。

4.3 AI Samurai (AI Samurai ONE) : 審査官の思考を再現する特許申請支援

株式会社AI Samuraiが提供する「AI Samurai ONE」は、大阪大学や北陸先端科学技術大学院大学の研究によって発明創出された技術をベースとする特許申請支援システムである¹。このツールは、特許出願前の先行技術調査から特許書類の自動作成に至るプロセスを統合し、特許申請に関わる人的・金銭的コストを最大で40%以上削減した実績を持つ¹。

4.3.1 独自の「A～Dランク付け」による特許性判定アルゴリズム

AI Samuraiを他のツールから際立たせているのは、発明内容に対する独自の特許性判定システムである。ユーザーが発明の内容を入力すると、システムは高速で特許データベースを調査し、関連性の高い類似文献を複数提示した上で、その発明の新規性と進歩性を「A、B、C、D」の4段階で客観的にランク付けする²⁸。

このランク付けの仕組みは単なる類似度計算ではない。実際の特許庁の審査官が新規性や進歩性を判断する際の論理プロセスをアルゴリズム化し、社内の弁理士が構築した膨大なランク付けデータベースを利用して機械学習を施したものである²⁸。パラメータの微調整を経て算出されるこの評価

は、出願すべきか否かの一次判断(特許査定の可能性予測)を行う上で極めて強力な指針となり、企業知財部の意思決定を大幅に迅速化する¹。

4.3.2 『IDEA BOX』の実装とマルチ生成AIモデルの動的切り替え

システムの進化は続いており、2025年11月には「AI Samurai ONE」に『IDEA BOX』と呼ばれる新機能が搭載された²⁹。IDEA BOXは、特許に特化した生成AIと自由な対話が可能なチャット機能を融合させた、研究開発・知財部門向けの次世代サポートツールである³⁰。これにより、発明の着想段階における手書きのメモやラフなスケッチから、きちんとした発明提案書を作成したり、アイデアの壁打ち(ブレインストーミング)を行ったりすることが可能となった²⁹。さらには、クレームチャートの作成、明細書や要約書の自動生成、海外特許の翻訳、特許用の白黒図面の生成までを一気通貫で実行できる²⁹。

また、2026年3月のアップデートにより、ユーザーは状況や目的に応じて複数の生成AIモデル(OpenAIのGPT、AnthropicのClaude、GoogleのGeminiなど)を切り替えて使用する機能が追加された²⁹。特定のタスクにおいて、より高い推論精度が必要な場合は最新の大型モデルを、スピードとコストを重視する場合は軽量モデルを選択するといった柔軟な運用が可能となり、目的に最適化されたアウトプットを実現している³⁰。

4.4 Patentfield (Patentfield AIR) : マクロな知財情報の高度な可視化と分析

Patentfield AIRは、特許情報分析の効率化にとどまらず、膨大な特許情報の拡張性と分析精度が求められる戦略的ビジネス領域において、迅速な意思決定を支援するために設計されたエンタープライズ向けの生成AIプラットフォームである¹。同システムの最大の強みは、AIによる自然言語処理と「高度なデータの可視化(ビジュアライゼーション)」のシームレスな統合にある¹。

4.4.1 最新生成AIモデルの早期実装と専門家レベルの推論能力

Patentfieldは、外部の最先端LLMをいち早くプラットフォームに統合することで、常に最高水準の推論能力を確保している。例えば、2026年1月には、OpenAIの「gpt-5.2-2025-12-11」やGoogleの「gemini-3-flash-preview」といった最新モデルが追加実装された³³。

gpt-5.2は高度な論理推論において卓越した性能を持ち、実務的なタスク評価ベンチマークにおいて前世代を大きく上回る専門家レベルのスコアを記録している³³。これによりPatentfield AIRは、特許明細書の極めて正確な要約や、技術的な文脈を深く読み取る精緻な分類、図面を含む複合的な調査など、高度な推論を要するタスクにおいて高い信頼性を発揮する³³。一方、gemini-3-flash-previewは高い推論精度と低遅延・低コストを兼ね備えており、大規模な特許データの高速スクリーニングやリアルタイムでの分類処理など、スピードが求められるタスクに最適化されている³³。生成AIの汎用性を活かし、外国文献の翻訳や実施例からの組成・数値の抽出といった多彩な機能を提供している³⁴。

4.4.2 マップ機能との強力な連携による特許ポートフォリオ分析

Patentfield AIRが他のタスク特化型ツールと決定的に異なるのは、単一の特許文献に対する処理だけでなく、検索によって得られた「母集団のすべての特許(数千件規模の競合他社の特許や、特定の技術テーマの特許ポートフォリオ全体)」を対象に、生成AIを一括して適用・分析できる点である³²。

ユーザーは特定の検索条件(AIによる類似文書検索なども可能)で母集団を作成し、生成AIに対して査読条件を設定する³²。生成AIは膨大な特許群を一つ一つ査読し、企業独自の社内分類や特定のラベル、抽出タグを自動的に付与する³²。そして、生成AIが付与したこれらの分類結果を分析軸として、Patentfieldの強力な「マップ可視化機能」と直接連携させるのである³²。

この可視化機能を用いることで、ユーザーはマップ上で技術動向を集計・絞り込み、競合企業の技術開発戦略のシフトや特許出願動向のマクロなトレンドを瞬時かつ直感的に把握することが可能となる³²。このマクロ分析能力は、大企業の知財部だけでなく、新規事業投資やM&Aを検討する経営層にとって、市場競争力を高めるための戦略的インサイトを提供する強力なツールとなる¹。

特許特化型生成AIツールの機能・戦略的ポジショニング比較

ツール名称	カテゴリ	コア技術・手法	最大の強み	主なターゲット・導入部署
Patsnap Hiro	AIエージェント	PharmaGPT, RAG+RAT, TRIZ	エンドツーエンドの自律的R&D知財戦略・推論	グローバルR&D・知財戦略部門
Tokkyo.Ai	AIエージェント	Deep Search, 自律的ドラフト生成	生の研究メモからの意味ベース発明抽出と出願準備	R&D現場・出願業務担当者
Genzo AI	従来型 / 業務自動化	SaaS型自動化プラットフォーム	自社実証済みの知財業務自動化と外部委託コストの劇的削減	大企業の知財部
Summaria	従来型 / 読解支援	OpenAI GPT連携, 一括処理	クリアランス調査のノイズスクリーニング・請求項対比	特許実務者・調査担当者
AI Samurai ONE	従来型 / 出願支援	IDEA BOX (GPT/Claude/Gemini 切替), 審査官ロジック	特許性のA-D客観的ランク付けと提案書自動生成	出願業務を頻繁に行う知財部・中小企業
Patentfield AIR	従来型 / マクロ分析	GPT-5.2, Gemini-3-flash, マップ可視化	膨大な母集団の高速分類とポートフォリオのマクロ可視化	知財戦略部・経営層

各ツールは知財ワークフローの異なる段階に最適化されている。AIエージェント型（Patsnap, Tokkyo.Ai）がプロセス全体を横断的に自律処理するのに対し、従来型ツールは「読解・スクリーニング」「出願可否判定」「マクロ分析」「社内コスト削減」といった特定領域で深い専門性を発揮する。

Data sources: [Yorozu IPSC](#), [Patsnap](#), [PR TIMES](#), [ITmedia](#), [Yorozu IPSC Blog](#), [AI Samurai Note](#), [Patentfield](#)

5. 企業におけるAI戦略と最適なツール選定のアプローチ

各ツールの持つ特性と技術的背景を踏まえ、企業が自社の知財戦略を推進する上で、「特許特化

型AIエージェント(Patsnap / Tokkyo.Ai)と「従来型生成AI活用ツール(Genzo AI / Summaria / AI Samurai / Patentfield)」をどのように評価し、組み合わせて活用すべきかについての考察を行う。

5.1 「自律性」か「制御性」か：タスク性質による使い分け

AIエージェントの最も革新的な利点は、人間の介在を最小限に抑えたプロセスの自律性にある。Patsnap HiroやTokkyo.Aiは、R&D現場の断片的な研究メモや抽象的なアイデアといった「初期入力」から、最終的な技術動向レポートや出願ドラフトといった「高度な成果物」に至るまでの間の中間プロセスを、システム自身が計画し実行する⁴。この自律性は、研究者が本来行うべき「創造的な問題解決」や知財部員の「戦略的意思決定」にリソースを集中させるための強力な手段となる⁹。しかし、自律性が高い反面、人間がプロセスの微細な部分をコントロールすることが難しい場面も存在する。これに対し、Summariaのようなタスク特化型ツールは、例えば侵害予防調査における対象製品と特定請求項の対比など、非常に限定的だがミスの許されないプロセスにおいて、人間が直接指示を与え、出力を逐一確認しながら進めることができるため、実務上の「制御性」と「透明性」が極めて高い²³。したがって、初期のアイデア拡張やマクロな調査にはエージェント型を用い、精緻な法的リスクの確認には特化型を用いるといった使い分けが合理的である。

5.2 組織課題とROIに基づくソリューションの適性

ツールの選定は、導入企業の組織規模や現在直面している知財のボトルネックによって大きく異なる。

1. **R&Dと知財の統合・イノベーション創出の加速:** 研究開発部門が持つ現場のノウハウを特許という形式知に変換するスピードが遅いことが課題である場合、Tokkyo.Aiのような生データから意味ベースで発明を自動抽出するエージェント機能が劇的な効果を発揮する¹⁴。また、グローバルな競争環境において新たな技術的ブレイクスルーを模索している場合は、TRIZを活用して発想を広げるPatsnapが強力なパートナーとなる⁴。
2. **出願業務の効率化と直接的なコスト削減:** 外部の特許事務所へ支払う費用を削減し、社内での知財業務を内製化したいという明確なコスト目標がある場合は、島津製作所の実践によって年間8,000万円の削減効果が証明されているGenzo AIや、審査官のロジックに基づき客観的な特許性評価を行って出願書類のベースを自動作成するAI Samuraiの導入が、即座に高い投資対効果(ROI)を生み出す¹⁶。
3. **マクロ戦略策定とポートフォリオ管理:** 経営層や知財戦略担当者が、特定技術領域のホワイトスペースの探索、競合他社の動向監視、あるいはM&Aのためのデューデリジェンスを行う場合、数千件規模の特許集団を一括して生成AIに分析・分類させ、マップ上に視覚化できるPatentfield AIRが最も戦略的なインサイトを提供する³²。
4. **日常的な調査業務の負荷軽減:** クリアランス調査や無効資料調査などにおいて、無数のノイズ特許の排除作業に知財担当者が疲弊している場合、製品仕様と請求項の相違点を一括で対比・出力し、調査の工数を直接的に削減するSummariaが現場の強い味方となる²⁵。

ツールカテゴリ	代表的ツール	最適な組織課題・目標	主な提供価値(期待されるROI)
自律型エージェント	Patsnap, Tokkyo.Ai	R&Dと知財の連携強化、新規発明の高速	アイデアから知財化までのリードタイム短

		抽出	縮、未知の技術領域の探索
業務自動化SaaS	Genzo AI	外部委託コストの削減、社内ノウハウのシステム化	明確な外部支出の削減(数千万円規模)、業務標準化
出願・査定支援	AI Samurai ONE	出願可否の迅速な判断、提案書の作成補助	出願判断の客観化、申請関連業務コストの削減(最大40%減)
読解・スクリーニング	Summaria	FTO調査等のノイズ排除、難解な特許の理解	調査担当者の工数劇的削減、事業部での特許理解度向上
マクロ分析・可視化	Patentfield AIR	競合ポートフォリオ分析、経営層への知財戦略提案	高度な推論に基づく精緻な市場俯瞰、M&Aや開発投資判断の材料提供

6. 結論: 次世代の知財競争を勝ち抜くためのハイブリッド戦略

知的財産分野における生成AIの活用は、単なる「便利な検索・要約エンジン(従来型生成AIツール)」の段階から、与えられた目標に向けて自律的に思考し、複数の推論と外部ツールを駆使してイノベーションへとユーザーを導く「AIエージェント」の段階へと、確実な進化の歩みを進めている。本レポートの分析が示す通り、島津製作所型Genzo AI、Summaria、AI Samurai、Patentfieldなどの従来型・特化型生成AIプラットフォームは、決して陳腐化したわけではない。むしろ、出願支援、読解・クリアランス調査のスクリーニング、マクロポートフォリオの可視化、外部コストの自動化といった、知財実務を構成する個々の複雑なプロセスに対して極めて洗練された最適解を提供しており、現場の即時的な業務効率化と品質向上において不可欠な役割を果たし続けている。

一方で、Patsnap HiroやTokkyo.Aiに代表されるAIエージェント型プラットフォームは、RAGに思考能力を持たせたRATアーキテクチャや、自律的計画(Chain-of-thought)機能を実装することで、人間の作業介入を最小限に抑えつつ、断片的な研究データからの発明の抽出や、広範な戦略レポートの自動生成といった、より高次元で統合的なタスクを完遂する能力を示している。これは、知財部門をオペレーション業務から解放し、より創造的な戦略策定にシフトさせるための重要な触媒となる。企業がグローバルなイノベーション競争において優位性を維持し、自社の特許を「守りのツール」から「経営を推進する武器」へと昇華させるためには、単一のAIツールに依存する画一的なアプローチは推奨されない。自社の知財ワークフローのボトルネックがどこにあるのかを精緻に特定した上で、ミクロな実務タスクの極限効率化には従来型生成AIの鋭い切れ味を活かし、R&D部門との連携強化

や新たな技術的ブレイクスルーの探索にはAIエージェントの自律性を活用するといった、多層かつ適材適所の「ハイブリッドAI導入戦略」を構築することこそが、次世代の知財競争を勝ち抜くための最重要課題であると結論付けられる。

引用文献

1. 生成 AI 活用特許分析ツールの比較分析: - よろず知財戦略 ..., 6月 5, 2026にアクセス、
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/34eff7c02387c7ab46b1.pdf>
2. What is an AI agent? - Patsnap Help Center, 6月 5, 2026にアクセス、
<https://help.patsnap.com/hc/en-us/articles/27718757796125-What-is-an-AI-agent>
3. 特許読解支援AIアシスタント「サマリア」アップデート - よろず知財戦略コンサルティング, 6月 5, 2026にアクセス、
<https://yorozuipsc.com/blog/ai6182318>
4. How Patsnap AI Agents Work, 6月 5, 2026にアクセス、
<https://help.patsnap.com/hc/en-us/articles/30912457586717-How-Patsnap-AI-Agents-Work>
5. Using Hiro in Your Analysis - Patsnap Help Center, 6月 5, 2026にアクセス、
<https://help.patsnap.com/hc/en-us/articles/13003482519709-Using-Hiro-in-Your-Analysis>
6. Patsnap Hiro LS | Trusted AI Assistant for Global Drug Discovery, 6月 5, 2026にアクセス、
<https://www.patsnap.com/ai/ls>
7. PatSnap Unveils CoPilot, Its New AI Assistant To Revolutionize IP And R&D Workflows, 6月 5, 2026にアクセス、
https://www.patsnap.com/resources/blog/press_release/patsnap-unveils-copilot-its-new-ai-assistant-to-revolutionize-ip-and-rd-workflows/
8. Introducing Hiro - AI Assistant for IP and R&D - YouTube, 6月 5, 2026にアクセス、
<https://www.youtube.com/watch?v=tBfj0wugo-0>
9. AI tools built for IP and R&D - PatSnap, 6月 5, 2026にアクセス、
<https://www.patsnap.com/ai>
10. Introducing Hiro, an AI assistant built for IP and R&D workflows - PatSnap, 6月 5, 2026にアクセス、
<https://www.patsnap.com/resources/blog/introducing-hiro-an-ai-assistant-built-for-ip-and-rd-workflows/>
11. 日本初、AIエージェントを搭載した特許支援プラットフォーム「MyTokkyo.Ai」提供開始, 6月 5, 2026にアクセス、
<https://www.tokkyo.ai/patent/ai-agent/>
12. 日本初！リーガルテック社、特許特化ディープリサーチ実装！調査 ..., 6月 5, 2026にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000388.000042056.html>
13. 日本初！リーガルテック社、特許特化ディープリサーチ実装！調査から特許出願文書ドラフトまでをAIエージェントが自律実行【TokkyoAi】 - Tokkyo.Ai, 6月 5, 2026にアクセス、
<https://www.tokkyo.ai/patent/deepresearch/>
14. 【特許AIエージェント最新事例】「MyTokkyo.Ai」がリサイクル樹脂・バイオプラスチック成形技術の発明抽出を支援 ～環境対応素材開発における知財戦略を効率化～ |リーガルテック株式会社のプレスリリース - PR TIMES, 6月 5, 2026にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000334.000042056.html>
15. MyTokkyo.Ai ユーザーマニュアル - Tokkyo.Ai プライベートAI特許, 6月 5, 2026にアク

セス、

https://serve.mytokkyo.ai/manual/MyTokkyo.Ai_%E3%83%A6%E3%83%BC%E3%82%B5%E3%82%99%E3%83%BC%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB.pdf

16. 知財力底上げへ 島津製作所が新会社「Genzo AI」設立 業務を自動化、コスト削減、6月5, 2026にアクセス、
<https://mag.executive.itmedia.co.jp/executive/articles/2603/26/news097.html>
17. 島津製作所とIP Agent、知財業務自動化SaaS提供の子会社「Genzo AI」を設立 - Aldiver, 6月5, 2026にアクセス、<https://aidiver.jp/article/detail/477>
18. IPエージェント×島津製作所 新会社「Genzo AI」を共同で設立と製品説明会のご案内, 6月5, 2026にアクセス、<https://ip-agent.com/archives/549>
19. 年間8000万円のコストを削減した知財業務自動化 AI を外販、特許 ..., 6月5, 2026にアクセス、
<https://www.techeyesonline.com/news/detail/monoist-202604020600-1/>
20. 島津製作所、AI活用で特許業務を効率化 社内実証で年間8000万円削減効果 新会社「Genzo AI」で外部展開へ, 6月5, 2026にアクセス、
<https://finance.biggo.jp/news/wVc2JZ0BvbjfYyetXKJG>
21. Genzo AI | 次世代知財業務自動化プラットフォーム, 6月5, 2026にアクセス、
<https://www.genzo-ai.co.jp/>
22. 特許読解アシスタント「サマリア」に知財実務を支援する革新的な3つの機能が追加【サービス無料提供中】 | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース - PR TIMES, 6月5, 2026にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000086119.html>
23. 「サマリア」を利用した侵害予防調査 - よろず知財戦略コンサルティング, 6月5, 2026にアクセス、<https://yorozuipsc.com/blog/6818859>
24. 分類支援機能 | 特許文書読解支援アシスタント・サマリア - YouTube, 6月5, 2026にアクセス、<https://www.youtube.com/watch?v=vPz7f9PlgYI>
25. 特許スクリーニング支援機能 | 特許文書読解支援アシスタント・サマリア - YouTube, 6月5, 2026にアクセス、<https://www.youtube.com/watch?v=Dz9ZSrB6nwl>
26. サマリア, 6月5, 2026にアクセス、<https://patent-i.com/summaria/brochure.pdf>
27. 特許申請支援システムの「株式会社AI Samurai」, 6月5, 2026にアクセス、
<https://aisamurai.co.jp/>
28. CTO三上がメモするAI Samuraiへの道 vol.4 - note, 6月5, 2026にアクセス、
<https://note.com/aisamurai/n/n8e87b49cfca2>
29. AI Samurai ONEが複数の生成AIを切り替え可能に - よろず知財戦略コンサルティング, 6月5, 2026にアクセス、<https://yorozuipsc.com/blog/ai-samurai-oneai>
30. 「AI Samurai ONE」に新機能『IDEA BOX』搭載, 6月5, 2026にアクセス、
<https://aisamurai.co.jp/2025/11/28/%E3%80%8Cai-samurai-one%E3%80%8D%E3%81%AB%E6%96%B0%E6%A9%9F%E8%83%BD%E3%80%8Eidea-box%E3%80%8F%E6%90%AD%E8%BC%89%E2%99%A1%EF%BC%81%EF%BC%81%EF%BC%81/>
31. 【AI Samurai ONE 機能追加】複数の生成AIを切り替え可能！『IDEA BOX』で特許調査・分析を効率化 - PR TIMES, 6月5, 2026にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000287.000021559.html>
32. Patentfield AIR | 生成AI調査・分析オプション, 6月5, 2026にアクセス、

<https://product.patentfield.com/air>

33. Patentfield AIR 複数の最新生成AIモデルが利用可能に - よろず知財戦略コンサルティング, 6月 5, 2026|にアクセス、<https://yoroziipsc.com/blog/patentfield-air-ai>
34. Patentfield AIR 生成AI調査・分析オプション, 6月 5, 2026|にアクセス、
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/patentfield-air-%E7%94%9F%E6%88%90ai%E8%AA%BF%E6%9F%BB-%E5%88%86%E6%9E%90%E3%82%AA%E3%83%97%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3>